

# 維持管理に関わる者に必要なこと

## 福井県コンクリート診断士会

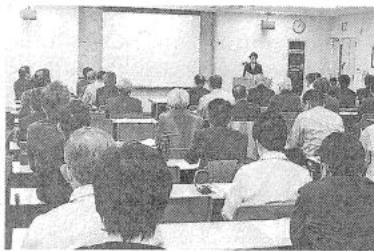
セミナーに120人

福井県コンクリート診断士会（石川裕夏会長）は10日、福井市手寄のアオッサで「平成28年度コンクリート診断技術セミナー」コンクリート構造

物の維持管理に関わる我々に必要なこと」を開催し、120人が参加した。写真。福井県建設技術公社が共催。

石川会長は冒頭「一般に我々の取組みを理解して頂くためにどのような行動が必要か、コンクリート構造物の維持管理に関わる我々に必要なことは何か、本質的なことを見出すセミナーにして欲しい」などとあいさつ。

インフラ構造物の老朽化が進む中、維持管理の



適切な実施が喫緊の課題で、そのためには技術者に加え、一般市民の理解が不可欠で、維持管理の必要性や魅力を広く伝えることが求められる。

また、インフラの重要な基幹材料であるコンクリートについて、本質を歴史から学び、未来像を描くことも重要。

セミナーでは、これらの分野で深い見識を持つ、アクロス・ザ・ドア建築研究所共同主宰の嶋沢晴美氏が「歴史に学ぶ

コンクリートの未来像」日経BP社建設局編集委員の西村隆司氏が「対話が生み出す誇りとやりがい」維持管理の魅力や価値の伝え方」のテーマで講演。

コンクリートの歴史について古代ローマの水道などの例や古代の素材・施工、日本のインフラや未来図、維持管理における対話や広報のあり方、発信すべき情報などを参加者は熱心に学んでいた。